カリキュラム区分	現行カリ	シラバス区分	専攻科

科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
助産学実践領域	S119	1年	通年	助産学専攻科	必修	助産学実習 II Clinical Practice in Midwifery II	360	8

担当教員					
井上　明子	今村　朋子	瀧本　千紗			

関連するDPキーワード	
○	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。
○	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。
○	④ マタニティサイクルにある対象の個別性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる
○	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。
○	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。
○	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。

授業目的

マタニティーサイクルの助産過程や分娩介助技術などの正常経過の助産実践に加え、救急対応やハイリスク事例のケアなど正常逸脱時の助産実践について、助産師としての知識・技術・態度を統合し、母子や家族を中心に継続的に寄り添う能力を養う。さらに、施設の特性をふまえた助産管理を理解するとともに、助産師の役割と責任について発展的に考える能力を養う。

到達目標（授業目標）

1．正常な経過をたどる母子と家族に対する助産実践を行うことができる。
2．正常から逸脱した経過をたどる母子と家族への助産実践について理解できる。
3．施設の特性をふまえた助産管理の実際について理解できる。

授業計画（項目・内容と方法・担当者）

授業概要

1．実習期間
以下の期間について実習要綱に記載する。
1）病院継続事例の妊娠期ケア実習期間
2）集中実習期間
3）補習実習期間
4）病院継続事例の育児期ケア実習期間

2．実習時間
病院実習は原則として、８：00～16：00とする
分娩期実習は24時間の待機制で行う

3．実習場所
1）基本的に、助産学実習Ｉと同施設の産科外来・病棟で実習を行う。
＊その他、クリニック等の補助機関において実習を行う場合がある。
2）事例の状況に応じて、上記以外にも手術室や小児科外来などの関連部門を実習場所に含む。
3）ハイリスクケア実習については、実習Ｉの施設以外に、以下の施設でも実習を行う場合がある。
愛媛県内の総合周産期母子医療センターもしくは地域周産期母子医療センター
4）家庭訪問については、病院継続事例の家庭に出向いて実習を行う。
5）育児期の地域実習については、継続事例の居住地域の中で対象に適した外出場所を選択する。

授業概要	
	4．実習の展開 詳細は実習要綱を参照

成績評価方法及び基準
実習評価表（100点）の項目について、実習内容および到達度、実習態度を点数化し評価する。60点以上を合格とする。

教科書	主に助産診断・技術学Ⅰ - Ⅲ、助産診断技術特論、ハイリスクケア論等で用いた教科書を使用する。
参考図書等	適宜紹介する。

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）
実習内容についての事前学習、事後学習、事例記録などの時間外学習を必要とする。

関連科目										
前科目	S111	周産期ハイリスクケ	S117	助産管理	S118	助産学実習Ⅰ				
後科目	S122	助産学研究Ⅰ	S123	助産学研究Ⅱ						

実務家教員						

備考	※この科目の先修要件は、S102性と生殖の形態機能、S103周産期医学、S104 新生児・乳幼児学、S107-109助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ、S118助産学実習Ⅰの科目の単位を全て修得していることとする。 分娩介助だけでなくハイリスクの対象への助産ケアなど、より深い知識が求められます。そのため、これまでの講義での学びを復習し、定着させておいてください。